第16回持続可能性ディスカッショングループ

日時：令和元年9月27日（金）9時30分～11時10分

場所：晴海トリトンスクエアY棟18階 TOKYO会議室

出席者：小宮山委員長、崎田座長、石田委員、小西委員、土井委員、中村委員、森口委員、藤野委員、黒田人権労働・参加協働WG座長、林委員（勝野委員代理）、永島委員、三浦委員

○荒田持続可能性部長　皆様おはようございます。本日は、御多用の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。時間になりましたので第16回持続可能性ディスカッショングループを開催いたします。

まずはじめに、副事務総長の山本から御挨拶させていただきます。

○山本副事務総長　おはようございます。本日はお忙しい中、16回目の持続可能性ディスカッショングループにお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

2020大会まで今日であと301日というふうになってきております。既に1年を切りまして、今、我々としてはテストイベントをかなり精力的にやっているところでございます。特に夏の間は、屋外競技、暑さということがありますので、屋外競技を中心としたWave1と呼んでおりますけれども、テストイベントをやってまいりました。全部で大体56競技のテストイベントをやろうと思っておりますが、今21でしたか、20を超えたぐらいのところまで進んできております。それぞれの課題を洗い出しておりまして、この実践的なフェーズに入っております。とともに、テストイベントを御覧になったお客様が、やはり大会を楽しみにしてくださるという機運醸成の面でも、非常に大きな役割を果たしているかなというふうに思っております。

今年の3月には、トーチのデザインを発表させていただきました。それからオリンピックとパラリンピックの1年前イベントを7月と8月にやってまいりましたけれども、それぞれの場で、都市鉱山でつくったメダル、このデザインを発表したところでございます。それから、かなり話題にもなりましたけれども、チケットの抽せん販売、これが今始まっておりまして、皆様方から高い関心をいただいているところでございます。これからもいろんな方法で大会の盛り上げに力を尽くしていきたいというふうに思っております。

こうした大会の準備の中で、持続可能性への取組をしっかりとこの中に組み込んでいく、

統合していくということが、我々重要だと思っております。象徴的な取組としては、今申し上げました、みんなのメダルプロジェクト、約5,000個のメダルができ上がるわけですけれども、こうしたプロジェクト。それから、ここからも望んでいただけますが、選手村の中にビレッジプラザという、選手が憩うような場が木材でできていきますけれども、全国の63の自治体から出していただきました木材、これをお借りして、今、建設が進んでいるところでございます。大会後には、これを各自治体にお返しをして、記念のまたメモリアルなものに使っていただくと、こういうプロジェクトでございます。

さらには、家庭から出るプラスチック等を集めさせていただいて、表彰台をつくる、みんなでつくる表彰台プロジェクト、これも推進をしています。それから聖火リレーの先ほど申しましたトーチ、これの素材の一部に東日本大震災の仮設住宅で使っておりましたアルミの建材、廃材を再生利用する、こういった取組を進めているところであります。

これまでいただいた御意見の中で、こういった象徴的な取組をしっかり国内外に発信をしていくことが重要だと、これがレガシーにつながるんだという御意見をいただいております。

今日は、こうした取組を発信の大もととなる持続可能性の報告書、この方向性と、さらにはその発信の仕方につきましても、各取組の進捗状況とあわせて御報告をさせていただきたいと思っております。何とぞ忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○荒田持続可能性部長　ありがとうございました。

なお、山本は、業務の都合によりこちらで退席させていただきます。

なお、このディスカッショングループは、メディアの皆様にも公開させていただいております。カメラスチールの皆様、冒頭、傍聴撮影のみとさせていただきますが、ペン記者の皆様は、会議傍聴可能とさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

本日は、崎田座長をはじめ各委員の皆様に加え、小宮山委員長並びに国及び東京都から御出席いただいております。また、本日は持続可能性報告書に関して御議論いただくため、人権労働参加協働ワーキンググループ座長の黒田かをり委員にも御出席いただいております。

なお、関係行政機関につきましては、今回から東京オリンピック・パラリンピック準備局の田中部長から三浦部長に、環境省の角倉課長から永島課長に変更になっております。どうぞよろしくお願いいたします。

それではプレスの皆様、冒頭撮影はここまでとなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは以降の議事進行につきましては、崎田座長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○崎田座長　おはようございます。開催まで1年を切りまして、本当に皆さん、さまざまな分野のところで御尽力いただいていると思います。ありがとうございます。そういう中で、特にこの持続可能性の分野、先ほど山本副事務総長も、いろいろと取り組んでおられることをお話しいただきました。で、それをどう発信していくのかという辺りが、これから大事なところというお話がありました。実は、前回の小宮山委員長も出席いただいた街づくり・持続可能性委員会のときも、やはりこれからは発信の戦略とか、SDGsとどう明確に紐づけていくのか、その辺を共有していくことが大事というような意見も大変強く出ました。そういうことも踏まえて、皆さんとしっかりと今日も意見交換して、内容的によりよいものに、そしてしっかり発信もという辺りは、今日も流れがつくっていければありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、今日の進行に関して、もう一度、荒田部長のほうからお話しいただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

○荒田持続可能性部長　本日も持続可能性の取組の一環としてペーパーレスで会議を進めさせていただきます。

スクリーン及びモニターにて投影いたしております、第16回持続可能性ディスカッショングループ議事次第を御覧ください。

少し小さくて申し訳ありません。本日は、まず1の持続可能性大会前報告書の方向性について説明いたします。その後、2の持続可能性に関する発信ツールについて御説明いたします。それぞれの項目の説明の後に、委員の皆様に御議論いただきたいと考えております。よろしくお願いします。

○崎田座長　ありがとうございます。

今この議事次第のページをそのまま見ていただければと思いますが、資料2のところに、前回の街づくり・持続可能性委員会における御意見という資料が提示されております。それに関しては、皆さん、事前の御連絡などでデータが行っていると思いますので御覧いただいているかと思いますが、先ほど私もちらっと申し上げたように、取組をしっかり発信してほしいということと、SDGsなどをきちんと紐づけて発信してほしいという点。あとは

レガシーとしてどういうふうに伝えていくのか明確なイメージを持ってということを、かなり皆さんにお話しいただいたというふうに理解をしております。

1ページだけですので、どうぞ皆さん、データなど御覧いただければと思います。こういうご意見などを受け止めて、今日の準備をしてくださっていると理解をしておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

それでは、議事として次の資料を、今、2を出していただきました。ありがとうございます。先ほど申し上げたようなポイントが、前回の街づくり・持続可能性委員会のほうで出たということを御報告させていただきます。

それでは、その次の資料3に入りますけれども、こういうことを踏まえて、今どういうふうに取り組んでおられるか、持続可能性大会前報告書の方向性に関して、まず事務局に説明をいただき、皆さんから忌憚ない御意見をいただくという、そういう形にしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○大谷持続可能性企画課長　それでは、資料3、持続可能性大会前報告書の方向性について御説明をさせていただきます。

ちょっと表示が、すみません、出ておりませんけれども。皆様、お手元の資料をお持ちでしょうか。よろしいでしょうか。

○崎田座長　ちょっとお待ちいただけますか。

では、よろしくお願いします。

○大谷持続可能性企画課長　失礼いたしました。それでは、説明をさせていただきます。

それでは資料の、まず1ページ目でございます。こちら、私どもの持続可能性の時間軸を表したものでございまして、2016年から18年にかけまして、私どもの持続可能性に関する計画をそれぞれ立ててきたところでございます。そして、2019年から2020年にかけましては、報告書を3回公表するという予定でございます。今回、御説明するのが2020年の3月に発行予定の、真ん中の大会前報告書を今回、準備を進めているというものでございます。

次の2ページ目を御覧いただければと思います。この持続可能性報告書の概要でございます。こちらにつきましては、私ども組織委員会及びそのステークホルダーの皆様と協力して、大会としてどのように持続可能性に貢献していくのかということを判断していただくための資料というものでございます。先ほど申し上げましたように、3回の報告書を発行していくというところで、特に国際的な基準であるGRIスタンダードに基づいた報告をしていくということになってございます。前回の2019年の報告書についても、こちらに即

した報告を既にさせていただいております。これに沿って、社会でその関心を持たれていることや、私どものその活動の全体像、またデータですとか、その結果だけではなくプロセスも、ネガティブなものも含めて御報告をしていくというところを特徴としてございます。

続きまして、3ページ目でございます。三つの報告の位置づけを簡単に御説明してございます。前回の報告書は、大会の1.5年前に報告をしていくというところで、途中の段階での御報告ということでございました。今回の報告書につきましては、大会のその最終の準備段階を御説明していくというもので、3回の報告書の中では最も内容的には厚くなってくるものというふうに位置づけております。参考までにロンドン大会の総ページ数も、ここで記載をさせていただいておりますが、ページ数としても、ロンドン大会でも大きなウエートを占めているというものでございます。

来年の大会後に発行予定の報告書につきましては、その大会後に明確になる情報をしっかりとまとめて、最後に年末に報告をさせていただくという予定でございます。

続いて、4ページ目でございます。今回報告を予定しております大会前報告書の特徴としては、やはり今申し上げましたとおり、その中心となる報告書になるということ、特に大会前の非常に関心の高い時期に公表されるというところで、我々の大会の機運醸成にとっても非常に重要なものでございます。

そういった位置づけから、今回は大会の報告書の本体だけではなく、その概要版の作成を予定しております。この概要版も作成することで、わかりやすく、皆様によりわかっていただけるように発信を工夫してまいりたいというふうに思っております。

続きまして、5ページ目でございます。大会前報告書の構成案ということで、こちらは今年3月公表させていただきました報告書の項目立てを基本的に踏襲しております。前半の部分に、その報告書の位置づけや組織の構成等を御説明した後、各取組について具体的に記載を進めてまいります。こちらにつきましては、前回の報告書に比べまして、その取組の内容や取組の結果を拡充して記載をしていきたいというふうに考えております。

次の6ページ目以降で、各テーマの進捗を御説明いたします。今回まだ報告書については、これから着手していくというところで、これまでの取組の主なものをピックアップして御報告させていただきたいというふうに思います。

まず、7ページ目が、持続可能性のマネジメントシステムでございます。こちらは、従前よりISO規格に則って持続可能性のマネジメントシステムを進めていくということで御

説明をさしあげております。既に、これまでも御説明させていただきましたけれども、要は組織の中に持続可能性に関する担当者を設置いたしまして、そういったものへの浸透、あるいは、新たに着任する職員、特に組織委員会は非常に数多くの職員が新たに着任をしてまいりますので、そういった職員に対する研修ですとか、それからまた既存の職員に対しても、全ての職員が受講できるようなe-ラーニングなどの形で持続可能性の浸透を図っているところでございます。

この規格の認証につきましては、現在、外部認証機関による審査を、まさに受けているところでございます。こういった認証審査の結果も踏まえまして、さらに大会開催に向けた、より改善を進めていきたいというふうに考えております。

続いて8ページ目が、気候変動でございます。気候変動につきましては、まず車両の低燃費化ということで、こちらでFCVまたEVの導入を御紹介させていただいております。こちらにつきましては、まずFCVということで2,700台の車両のうちFCVを約500台導入するということで進めているところでございます。また電気自動車につきましても、こちらの写真にありますように、選手の移動ですとか、それからラストマイル、またその歩行領域といわれる一番右のタイプですけれども、歩行者の方が使えるような形で、さまざまな形での電気自動車の導入を予定しているところでございます。

9ページ目でございます。私どもで大会全体のCO_2の排出量の計算を行っております。こちらの計算につきましては、第三者の検証をこれから受けた上で、今後の3月の報告書にその新たな最新の情報での結果を報告したいというふうに考えてございます。

また、再生可能エネルギーの利用を進めているところでございます。こちらも大会中の利用というものを進めているとともに、各会場の整備におきましても、各施設において再生可能エネルギー設備の導入を図っていただいているというところでございます。また、設備面でも、こちらにありますLED照明の設置をはじめとして、各種省エネ設備の導入を進めているところでございます。

続いて、10ページ目でございます。気候変動の分野では、カーボンオフセットの取組を進めております。こちらにつきましては、東京都、埼玉県の自治体の御協力をいただいて、カーボンオフセットを進めております。現在、東京都には約181万トンのCO_2を寄附していただいておりまして、東京都の政策の分と合わせますと、約半分程度のオフセットを実施できる状況まで御協力をいただいているというところでございます。

また、大会に直結するCO_2の排出以外の部分で、幅広く市民の方にCO_2の削減の取組をお

願いしているところでございます。こちらにつきましては、現在、ここに書かせていただいております6自治体の皆様の御協力をいただいているところでございます。まだまだ周知が足りない部分もございますので、積極的にこれからもアプローチをしていきたいと思っております。

続きまして、資源管理の分野の御説明をさせていただきます。資源管理の分野で、こちらで大きく2点、記載をしております。一つは、会場から出る廃棄物のリユース・リサイクルということで、65％という数値目標も掲げさせていただいております。こちらの図に表しております六つの分別案をお示ししておりますけれども、こういった形で観客エリアの廃棄物をしっかり分別をしていくよう準備を進めてございます。

また、購入する物品のリユース・リサイクルという面では、99％という数値目標を掲げております。こちらにつきましては、アセットトラッキングシステムというものを導入いたしまして、要は、物品の動きを把握する取組ですとか、処分先を早期に決定をして、円滑にリユース・リサイクルを進めていくということを進めているところでございます。

次のページでございます。また資源管理におきましては、冒頭の御挨拶で申し上げましたけれども、象徴的な取組を幾つか進めております。冒頭御説明いたしました使い捨てプラスチックを用いた表彰台の製作ですとか、また聖火リレーのトーチやユニフォームにも、再生素材を活用するという取組を進めております。

また、会場内でのごみの分別というところでは、この夏のテストイベントでも実際に観客の方にごみの分別をしていただくようにテストを行っております。こういったことも進めながら準備を進めているところでございます。

13ページ目が、取組の進捗・課題というところでございます。会場から出るごみにつきましては、適切な分別をしっかりと会場で行っていく方策を、引き続き検討していくというところ。また、昨今のプラスチックに関する動向も踏まえつつ、使い捨てプラスチックの大会での対策の詳細を検討してまいりたいと思っております。

また、調達物品のリユースとリサイクルに関しましては、レンタル、リース等の活用ですとか、また、リユースの受け皿となる団体やその処分方法なども、我々組織委員会の中の各部署に支援を進めながら、具体的な対策を進めていきたいというふうに考えております。

続きまして、14ページ目以降が、大気・水・緑・生物多様性等でございます。こちらも今年の夏のテストイベントで、暑さ対策に関しましてさまざまな設備面、また暑さ対策の

グッズ類をお配りしながら、テストを進めてきたというところがございます。また水の循環という面でいいますと、お台場海浜公園の水質に関しまして、水質と水温の調査ですとか、また水中スクリーンの設置によって、その取組を検証してきたところでございます。

また、緑化の面でいいますと、その競技会場の緑化、またロード競技や、そのアクセス道路になります道路の緑化についても、各行政機関の御協力もいただきながら進めているというところでございます。

15ページ目が、今後の取組や課題でございますけれども、暑さ対策につきましては、今年、さまざまな検証を行った結果を、今後の対策にも具体策に結びつけていきたいというふうに考えております。また、都市における水環境というところで、こちらお台場の水質につきましては、一部、今年のテストイベントでは、その水質が基準を超えたということがございました。来年の本大会につきましては、昨年、実施をいたしました3重スクリーンの設置を行うことで、水質をしっかりと担保していきたいというふうに思っておりますし、また、東京都をはじめといたしまして、関係者の皆様とも連携をしながら、水質の改善に取り組んできたいというふうに思っております。

緑化や生物多様性につきましては、いわゆる民間や地域の方々も、観客の方々が楽しめる緑化というところを行政のほうで進めていただいているというところも、あわせて進めていきたいというふうに考えております。

続きまして、ダイバーシティ＆インクルージョン、人権の分野の取組でございます。こちらはD&I戦略というものを組織委員会として掲げておりまして、こちらの四つの戦略を掲げておりますけれども、それに基づいて、いわゆるそのD&Iの研修の実施ですとか、また、ここに記載をしておりますNipponフェスティバルという、こちら大会の直前から大会中に至る文化プログラムでございますが、こういった中でも共生社会というテーマを取り上げまして、発信を行っていくという取組も発表させていただいております。

また、アクセシビリティの確保、またボランティアの方々の参加など、さまざまな方々に参加いただくというような取組も順次進めているところでございます。こちらのD&I宣言につきましては、3月の街づくり・持続可能性委員会でも皆様のサインをいただいて、こちらで写真でも御紹介をさせていただいているところでございます。

これからボランティアの研修が10月から始まってまいりますけども、こういったところでも、こういったD&I宣言というものを取り組んで、これから参加いただく方々の意識を高めていきたいというふうに考えております。

次の17ページ目が、こちらライセンス商品の御紹介でございます。ライセンス商品ということで、大会の公式グッズということで販売をしております。こことD&Iの取組をいわば合わせて発信をしてございます。こちらの写真にあります、この視覚障がいのある方にも使いやすい白黒反転文具というところで、今日、現物をお持ちしておりますけれども、こちらのように白黒反転しますと非常に視覚の障がいのある方も見やすいということで、こういったカレンダー、あと点字が実際についておりまして、見えない方でもカレンダーとしてお使いいただけるというものでございます。また、手帳ですとか、それからこういった便箋というかメモですね、こういったものも御紹介をして、こういったグッズを通じて皆様の意識啓発というものを図っているというところでございます。

18ページ目でございます。今後、大会の開催に向けまして、D&Iや人権に関して、いわゆるその大会に係る全ての方を対象にした取組ということで、我々スタッフが、人権に関して適切に対応できるための実践的なガイドブックといったものを今、作成を検討しております。こういったものも踏まえて、我々組織委員会内での教育に活用していきたいというふうに考えております。また、観客の皆様に対しても、引き続きD&Iに関する御理解をいただけるような工夫を考えていきたいというふうに思っております。

続いて、19ページ目でございます。参加・協働、情報発信でございます。こちらは先ほど、冒頭、御挨拶でも申し上げましたメダルプロジェクトの結果を公表させていただきました。また、復興のモニュメントということで、要は東日本大震災の被災地の方々のメッセージを乗せたモニュメントを大会の会場付近に設置をいたしまして、それをアスリートに見ていただいて、またアスリートからまたメッセージを書いていただいて被災地にお返しするというような取組でございます。こちらには被災地で使われました仮設住宅のアルミも使っておりまして、いわゆる参加と資源循環の観点も含めた取組として、7月に公表させていただいたものでございます。

20ページ目でございます。さまざまな発信も同時に行っております。4月には国連と連携いたしまして、開発と平和のためのスポーツ国際デーという場で発信を行っております。また6月には、G20サミットで場所をいただきまして大会の取組を発信いたしました。また、1年前のタイミングでも、こういった具体的な取組の発信をさまざまな媒体、要はイベントですとか、それからメディアを通じて発信を行ってきたというところでございます。

今後の課題ですけれども、車両ですとか表彰台、ユニフォームなど、スポンサーの方々と進めてきた取組が実を結んできてございますけども、引き続き、若い方々、または市民

の方々との連携をさらに進めていきたいというふうに考えております。

また、大会が近づくとともに非常に関心が高まってくるというところで、この報告書の内容を核といたしまして、大会に向けて発信を強化していきたいと思っております。本日の後半に御説明する内容もその内容の一つでございます。また、観客の方々にも理解をいただけるような取組も、今、同時で進めておりまして、こちらも引き続き準備をしていきたいというふうに思っております。

22ページ目が、調達のことでございます。調達に関しましては、調達コードの遵守に向けまして、そのサプライヤーの皆様とのコミュニケーションを進めております。

また、木材の調達に関しましては、組織委員会の会場整備におきましても順次調達基準を満たした木材を活用しておりまして、また東京都等と協働で、モニタリング調査というものも実施をしているところでございます。

また、食品に関する調達に関しても、順次、現在委託業者が選手村の飲食の委託事業者も決定いたしまして、メニューを検討しておりますし、また調達基準を満たす食材の調査も、国とも連携して進めているというところでございます。

また、紙の調達につきましても、基準を設置した後、ライセンス商品や印刷物についても、紙の基準を満たしたものの使用を進めております。

また、ILOとの連携というところも取り組んでおりまして、先日9月18日にもILOとの協働で、サステナビリティに関するフォーラムを開催させていただいております。また引き続き、通報受付窓口等の運用も図っていきたいというふうに考えております。

24ページ目が、今後の取組ということで、木材の調達に関しましては、モニタリング調査について、引き続きフォローアップも含めて検討しているところでございます。

また、通報受付窓口につきましては、引き続きその存在自体をしっかり知っていただいて、まず認識をしていただくというところが重要と考えておりまして、引き続きさまざまな機会を通じて周知をしてまいりたいと考えております。

25ページ目でございますけれども、会場整備につきましては、現在恒久施設についてはかなり整備が進んでおります。今回、直近の取組の一部のみ、御紹介をしたいというふうに思います。

プロジェクト認証ということで、都の恒久施設におきまして、この木材の認証を受けた整備というところを、今回、御紹介をさせていただいております。またオリンピックスタジアムにおきましては、建設廃棄物のリサイクル99%という目標に向けた具体的な取組を

進めていただいております。

26ページ目でございます。特に特徴的なのが人権の分野でございまして、こちらもオリンピックスタジアムにおきまして、いわゆる発達障がいの方が気持ちを静めることができるように、「カームダウン・クールダウン」のスペースを設置しているところでございます。こういったところも非常に特徴的な取組として実施をしていただいております。

27ページ目が、今後の取組でございます。こちら進捗の図を書かせていただいておりますけども、恒久施設におきましては、今年度の後半から今年度いっぱい、来年の3月でほぼ竣工を終えるというところでございます。今後、仮設の整備が本格化してくる時期でございまして、この組織委員会が行う仮設整備におきましても、しっかりと持続可能性の取組を進めて、その実績をきちんと把握をして発信をしていくということを引き続き取り組んでいきたいと思っております。

最後に、スケジュールの御説明でございます。本日9月にディスカッショングループを開催させていただきまして、また個別のテーマにおきましては、各ワーキングの先生方と御相談をしながら進めていきたいというふうに思っております。そしてまた12月の上旬ごろ、またディスカッショングループを開催させていただきまして、より具体的な内容の御報告をさせていただきたいというふうに思っております。公表自体は、3月の街づくり・持続可能性委員会や理事会での御報告を経て、3月末に公表させていただきたいというふうに思っております。

説明は以上でございます。

○崎田座長　ありがとうございます。

今この最後のページ、このままちょっと見せていただければと思いますが、皆さんとお話し合いをしてきた持続可能性に配慮した運営計画、その第2版を2018年6月に発表したわけですけれども、それをもとに、今、組織委員会で具体的な内容を進めてくださっているわけで、どういうふうに実施するかということを具体的に発表するのが2020年3月の大会前報告書で、今それの準備を進めてくださっているわけです。そこで報告をするということは、どういうふうに実施するかということが明確にそこではっきりするわけですので、今日、御発表いただいたことに関して、報告書としての考え方、あるいは、その内容に関しても、いろいろ皆さんコメントあるかと思いますので、御意見いただきながら、あと半年、よりよい大会の準備を進めていただくように、本日の話し合いを進めたいと思っております。

小宮山委員長、話し合いの前に何か一言コメントはありますか。最後に言っていただくほうがよろしいでしょうか。

○小宮山委員長　いや、どちらでも構わないのですが、いずれにしても、今後の報告書は3月に出るものが場合によっては一番重要な骨格になるということなので、ぜひ、大きな点から細部にわたるまで、可能な限り検討していきましょうというのが一つですね。

それと、もう一つは、この次の発信ツールづくりみたいなところ、これは前回の街づくり・持続可能性委員会でも随分意見が出たのですが、やはり、サステナビリティって非常にその要素が大きいですから、ある人は人権という立場から考えるし、ある人は廃棄物といってもプラスチックを考える人もいるし、放射性廃棄物を考える人もいるとかですね、非常に多様だから、やはり全体をどこかに、なるべくコンパクトにまとめる必要があるのではないのかなと思います。

それで、オリンピックではキラーコンテンツの集合体を見せるのだという言い方をしていて、まあ、キラリコンテンツのほうがいいという人もいるのですけれども、私は最近、ショーウィンドウと言っているのです。オリンピックは持続社会のショーウィンドウだという言い方をしています。今度、京都でSTSという、サイエンス＆テクノロジーソサイエティという会議があるのですけれど、そこでちょうどサステナブルソサイエティというテーマのセッションで話すことになっておりまして、その読み上げ原稿をつくっております。そこでは、ショーウィンドウにこういうものが並ぶのだという言い方で、未来社会を示す場だと書いています。ぜひそれぞれの方から、大体この中で議論していることを書いていますので、齟齬はそんなにないと思うのだけれど、こういうことを加えたほうがいいということをお聞かせいただきたいので、後ほど配ってでもいただきたいと思います。

それから、持続可能性の話は、地球と人と自然と文化、ほかにもあるかもしれないけれど、大体そんな感じだと思うのですが、ほかの委員会でもやっているわけです。そういうところを含めたもの、例えば何かの報告書で見たのだけれども、ダイバーシティの企画があります。ONE -Our New Episode-という、いろいろなパフォーマンスをやる企画がされています。これは典型的な、人のダイバーシティ＆インクルージョンと言っていることのキラーコンテンツなのです。だから、それも当然、今度のオリンピックのショーウィンドウの一つのオブジェクトなので、そういった点も非常に重要だと思うのです。

サステナビリティをこの中で議論しているだけではない、オリンピックの企画全体を見回したショーウィンドウなのだということです。先ほどから国内への浸透ということが

非常に言われて、もちろん一つはそうなのだけど、やはり世界に対する国際的な発信です。両方のためにいい報告書と、それを発信するツールをぜひ充実していきましょうという2点を申し上げたいと思います。

○崎田座長　ありがとうございます。

組織委員会が実施しておられる多様なことをうまく、全体を包含して、持続可能性というものをよりよく意識して発信していくという、そこが大事という話と、国際的な発信も大変重要ということで、まずは全体的なお話をしていただきまして、ありがとうございます。

では、それぞれ御参加いただいている委員の皆さんには、今のような全体のお話と、あと御専門分野に関する御意見など、いろいろおありだと思いますので、今から20分ぐらい皆さんからどんどん御意見をいただくような時間にしたいと思っています。

今日の資料の13ページまでを前半、資源管理のところまでを前半にして、大気・水・緑・生物多様性のところからを後半としてお願いしたいんですが、よろしいでしょうか。全体に関することは、どうぞ、いつの段階でもおっしゃっていただければというふうに思います。よろしくお願いします。

ということで、皆様、御意見、久々ですのであると思います。お話しいただければと思いますが、脱炭素とか社会は盛り上がっていますので、やっぱり藤野委員からですかね。

○藤野委員　指名ありがとうございます。

先ほどの御報告で、スポンサー企業のトヨタが積極的に低燃費、脱炭素に向けた大会へのご協力を示していただきまして、計画を実現するにはスポンサー企業の協力は必須ですので、また、事務局のほうからも、ほかのスポンサー企業の方々にも積極的に御検討いただいているということを聞いておりますので、メディアの方にはそういったところが、こういうことをやりますとか、やりましたというような御報告があったときには、ぜひ紙面等で取り上げていただいて、そういう発信のほうもお手伝いいただけたらとてもいいなと、ありがたいなと思います。

一つ、市民によるCO_2削減への取組というものも今回、取り上げさせていただいていまして、今は全部で六つの自治体に御協力いただいているんですけども、日本は約1,800の自治体がありますので、この辺りにこれをどうやって広めていったらいいか。京都議定書以降、各自治体もいろいろ努力されているんですけれども、なかなかオリパラと、この普段やられているCO_2削減の活動と、リンクがあまりされていないところがあるかもしれな

いので、それぞれの場所でもしつなげる機会があったら、例えば、小宮山先生も低炭素杯をずっとやられていて、さっき見たら脱炭素に名前が変わったそうですけれども、そういったところで、オリパラも掛けることで今まで参加していなかった人が参加できるように、やっぱりエントリーのポイントをどうやってつくっていくかが大事かなと思いますので、その辺り、ぜひお知恵いただけたらと思います。

以上です。

○崎田座長　ありがとうございます。

いろいろ企業の皆さん、あるいは自治体、市民の皆さんとの連携で広めていくのは大変重要なところで、ありがとうございます。

なお、今お話しいただいた中で、トヨタさんの御協力でという話がありました。私、エネルギー関係のところも実はいろいろ関わっているんですが、燃料電池の自動車やバスだけではなくて、選手村の大会が終わってからの再開発は、全体を水素燃料電池で実施する予定ですが、あれは日本の水素燃料電池活用のモデル都市としては初めての事例だと思いますので、そういうことも含め全体が強いイメージを持っているのかなとは思います。

○藤野委員　あと、すみません。新宿区の取組、崎田座長の御支援でされていると聞いておりましたので、どうもありがとうございます。

○崎田座長　ありがとうございます。

それでは、お隣の森口委員、コメントありますか。

○森口委員　ありがとうございます。全体的なところと前半分のところで幾つか申し上げたいと思います。

全体に関しては、小宮山委員長が最後のほうにおっしゃったことに関わるんですが、今日のスライドで言いますと、5ページ、改めて主要テーマということで、気候変動、資源管理と書かれているわけですけども、やはり日本は持続可能性といった場合に、どちらかというと環境問題プラスアルファぐらいできた感じがあって、国際的にはより広い文脈の中で議論しているので、ここのメンバーの構成等を含めて、今日は黒田座長にも御出席いただいていますので、そういった部分はもうかなり配慮されつつあるんですけど、持続可能性の全体のバランスの中でこれまで議論してきた中で、ここで議論してきたことと、ここではやっていないけれども、ほかの委員会で持続可能性という文脈に位置づけられるものってあり得ると思いますので、そこをちょっと再度、点検いただければなということで、これは小宮山委員長がおっしゃったことの繰り返しになります。

それから、もう1点、日本と海外とのある種の、何といいますか、温度差とか危機感の違いみたいな話が、ちょうど昨日もNHKのクローズアップ現代で出ておりましたけれども、気候変動に対する危機感のようなもので、かなり温度差があるんじゃないかという感じがしておりまして、そういう観点で、日本ではかなり精一杯やっているつもりで、すごくショーウィンドウにいいもの出したつもりなんだけど、それってもう世界的に言えば当たり前とか、ちょっともう周回遅れだねというようなことになると、これはせっかくのPRの機会になっているつもりが、どうもそうならないということがあってはいけないと思いますので、その辺り、本当に世界的に今は最先端、この辺に行っているんだよということに照らして、十分な内容になっているかということについては、少し辛口のコメントになりますけれども、十分に見ていったほうがいいかなと思います。

それから、先ほど燃料電池、水素の話が出てまいりました。これも非常に技術として有望なところだと思いますけども、一方で水素をどうやって調達するのかということで、結果的には間接的にはローカーボンなり、ゼロカーボンにならないような水素の供給技術もあるので、そこのところの説明もしっかりしていかないと、そこの部分も足元をすくわれかねないと思います。いろんな数字、今日出ております。例えば、リサイクル率なんかも出ておりますけれども、どういうものでこういう数字を出したのかということの説明も丁寧にしていただいて、胸を張って、これ本当にこの数字で大丈夫なんだと言えるような説明までしていかなければいけないと思いますので、その辺りも含めて、我々がしっかり目を通せるような形で進めていただければなと思います。

以上です。

○崎田座長　ありがとうございます。

全体的な視点と、それを具体的に実施していくときの例えば環境配慮のところとか、きちんと見ていかなければというお話がありました。

さっきの水素燃料電池も、このオリンピック・パラリンピックは復興ということをかなり意識しているので、福島の再生可能エネルギーを活用したCO_2フリー水素を活用するという、そういうようなことを強調して、どのくらいのところまで実現できるかはこれからですけれども、そういうふうな流れで行っているということも一つのポイントかなと思います。いろいろ御指摘ありがとうございます。

あと、今、御専門の資源管理のところ、最初にですね、日本が周回遅れにならないようにという話がありましたけれども、特に今は食品ロスの問題とか、海洋プラスチックの

問題などが、やはり、私たちが考えている以上に世界の本気度というのが高まっている中で、そういう準備ができているかどうかというのは、常に考えていただければありがたいなというふうに思っています。

昨日、ちょうどレジ袋有料化の議論というのが環境省と経済産業省合同で、昨日の午前中からスタートしました。私も参加していますけれども、4月1日のスタートを目指して議論を進めるというようなことで素案が提示されていますので、特にオリンピック・パラリンピックのときに、社会の意識が変わっているような状態で世界からのお客様を迎えてレガシーとして定着させたいという、そういう話が委員からも事務局からもありました。ちょっと申し添えたいというふうに思います。よろしくお願いします。

ここまでのところで何かコメント、今の13ページまでのところで、特に今……。

小西委員、お願いします。

○小西委員　ありがとうございます。まず前半ということなので、気候変動と、それから資源循環ということですよね。

気候変動については、これ本当に今の段階ではとてもいいものができたと思っていますので、今、小宮山先生がおっしゃったようなショーウィンドウに並ぶ、本当にキラーコンテンツが並んでいるかなと思っています。

結構重要なのは三つのポイントかなと思っています。

一つは、やはり再エネをこれから日本でどうやって増やしていけるかというレガシーが残せることと、あともう一つが、これからパリ協定の始まる2020年でカーボンオフセットについて、そしてもう一つが、やっぱり循環社会へのこの電気、電化ということがすごく重要なキーワードで、電炉の鉄がこのオリンピックで指標としてうたわれていること、この三つをやはりキラーコンテンツのとしてショーウィンドウに出すといいのかなと思っております。

そこからいくと、ストーリー仕立てになるといいなと思っていて、今回はやっぱりこの再エネを100％使っていくということと、あと、やっぱり既存の会場についても、再エネ比率の高い電力会社へ切り替えをこのオリンピックは推奨していますので、もし切り替えてくれる会場が現れたら、それは一つとてもきれいなストーリーになるんじゃないかなと思いますので、ぜひそういったところも報告書に書けるようになるといいなと思っております。

あと、やはり電炉比率、電炉の使用量がどれぐらいかといったものもぜひ報告書に

書いていただいて、これは量を指標にしているということで比率は出ないということなんですけれども、そういったものも過去のものに比べて今回のオリンピックを契機にどうなったかというところも出せるといいなと思っております。

クレジットについては、まさに藤野座長がおっしゃったように、そもそも企業さんにとっては厳格なカーボンオフセットのガイドラインというのが非常に出ていますので、それも一つキラーコンテンツとして出して、かつ市民参加というものをこれからいかに広げていくか。WWFもアースアワーとかありますので、ぜひ協力していきたいなと思っております。

それから、資源循環のほうなんですが、私、この議論に全然参加していなかったのでちょっとこれを見て気になったのが、これ取組自体はシンボリックでいいと思うんですけれども、リデュースの取組はどうなっているんでしょうか。例えば、コップの会場への持ち込みとか、あるいは食べ物の容器とか、日本の場合、リサイクルがとても高いといっても、プラスチックはどうしてもサーマルリカバリーをリサイクルと日本はしていますので、これは必ずしもリサイクルと認められていないところもあるので、そこがやや気になったので質問させてください。

以上です。

○崎田座長　ありがとうございます。

今、最後に質問が出ました。資源管理のところで、リデュースのところがどうなっているのかというお話がありました。私のほうから一言申し上げれば、ここのページ、調達物品の再使用・再生利用目標99％という数字が出ていますが、こういう99％を設定するときに、再使用・再生利用ができるようなものではないと調達しないとか、やっぱりその辺から入っていますので、かなり現実的なリデュースの流れはできつつあるというふうに思っています。また、実は打ち合わせの段階では、選手村でのさまざまな生活物品がありますけれども、レストランとか、そういうところの食器であるとか、様々なものに関して最大限の配慮をするようにというふうにお願いをしております。今、仕組みづくりをしていただいている真っ最中という段階で、まだ具体的に発表できない段階でいらっしゃるんではないかなというふうに思います。

資源管理のところのリデュースに関してどうなっているのかという御質問がありましたけれども、何か今の段階でお話しいただけることはありますか。

○山下持続可能性計画課長　今、崎田座長からいただいたとおり、プラスチックの対策等

の検討を進めているところでございます。

小西委員のほうからいただきました、リサイクルに何をカウントしていくかというところにつきましては、65%の目標につきましてはマテリアルリサイクルできたものというところで、サーマルはカウントしていかないということで進めております。

○崎田座長　ありがとうございます。

実は資源管理のところは、今まさにいろんな仕組みをつくっていただいている真っ最中です。御指摘、委員の皆さんからの御指摘、あるいは資源管理ワーキングの委員の皆さんからの御指摘を踏まえて、組織委員会も最大限の努力をしていただければありがたいと思いますし、それがどういう形で落ちつくかというのが、この報告書に最終的に3月の発表の段階で出していただけるように、進めていただければというふうに思っております。

森次長、何かありますか。いいですか。一言ありますか。

○森総務局次長　なかなか話しにくいところと言いましょうか、とりあえず、関係するところと現在調整したり協議して、決め打ちできないところがあって本当に申し訳ありません。本来であるともう少し積極的に、今はこんな方向でというところがあるわけですけれど、お答えできないこともあります。

ただ、今、ちょっとここで食品廃棄物について書いていないものですから、食廃については、できるだけ再生利用をしようということで検討しています。ただ、食品廃棄物をリサイクルするところの地域的な特性などがありまして、地方に行くほどリサイクルが難しくなっております。食品廃棄物を例にとりましたけれど、物によっては、資源化施設がなかなか立地していないということがあって、それを一生懸命、探したりしておりますけれど、そういう努力をしながら、できるだけ会場から出るものについて、資源化率65%を達成しようと一生懸命、取り組んでおります。よろしくお願いいたします。

○崎田座長　ありがとうございます。

今、取り組んでいただいている真っ最中ということでお願いしたいと思いますが、先ほどの小西委員の御発言の中にもありましたように、リデュース、発生抑制のところを明確に意識をした上で、リユース・リサイクルを徹底してくださいという御発言だったと思いますので、ぜひその辺、意識しながら、仕組みをつくっていただければありがたいなというふうに思います。

なお、今日の資料には食品ロス削減のことが出ていませんが、資源管理目標の1番には食品ロス削減が出ていますので、その辺は、今はたしか農林水産省のほうもいろんなモデ

ル事業を、食品ロスの具体的な取組みを国際大会で実験してくださっているはずですので、そういうデータも出てきた段階で、飲食関係の事業者さんの取組方、あるいは選手への情報発信の仕方などあると思いますので、活かして取り組んでいただければありがたいというふうに思います。ありがとうございます。

それでは、ありがとうございます。では、後半のほうまで含めて、大気・水・緑から最後のところまで含めて、御意見などありましたらば、お話しいただければというふうに思います。

まず、中村委員、先に暑熱対策のほうのお話が出てくると思います。

○中村委員　ありがとうございます。

14ページ、15ページの大気・水・緑・生物多様性のところで、これは恐らくこの東京大会の少しクリティカルなところで、暑さ対策と、それから、お台場の水質という問題、そこへの取組というのは、もう集中して意識されていると思うんですよね。これはもちろん非常に重要なところで、今後も取り組まないといけないところなんですが、もっとアピールできるところは十分たくさんあって、東京がこれまで取り組んできていた、さまざまな生物多様性の取組、緑化・景観・水質浄化とたくさんありますので、それを十分アピールできるような報告書にぜひしていただきたいなというふうにまず思いました。

以上です。

○崎田座長　ありがとうございます。

ここも本当に暑さ対策と水質の問題とか、本当に大変な課題がありますので、しっかり取り組み、そして、アピールしていただければと思います。ありがとうございます。

それでは、土井委員、よろしくお願いします。

○土井委員　ありがとうございます。

その人権・労働の分野でショーウィンドウに飾るものは何かなと考えていたんですけれども、残念ながら特に思い至りません。小宮山委員長もおっしゃいましたが、何かほかにこの委員会で取り上げられていない何か、ダイバーシティ＆インクルージョン、その他、人権・労働に関する何か取組があるんでしょうか。私、ちょっと存じ上げないんですけど。あればすばらしいなと思います。まずは事務局に何かあれば教えていただきたいと思ったんですが。ちょっとシーンとしている感じがありまして。

○崎田座長　お願いします。

○荒田持続可能性部長　先ほど小宮山委員長からも御指摘いただいたんですけれども、大

会本番、2020年夏のパラリンピックの直前に、Nipponフェスティバルといいまして、文化の祭典の一環として、共生社会の実現に向けたイベントを行います。実は8月28日にプレスリリースがされております。これはこちらの委員会ではなくて、別の部署で検討してきたものです。そこでは、ONE-Our New Episodeという事業タイトルで、クリエイティブディレクターのもとで、これから詳細は決まっていくのですけれども、例えば車椅子ダンサーの方ですとか、あとクリエイターですとか、たしかLGBTの方もいらっしゃったかと思いますが、そうした方がいろいろ関わって、さまざまなイベントを企画していくという試みがなされています。

いわゆる、プロの方だけではなくて、一般の市民の方も巻き込みながら、オリとパラの間にこうしたイベントを行い、パラリンピック、そのダイバーシティの関心を高め、かつ皆さんの参加を呼びかけていくというものが、企画をされているところでございます。

○土井委員　ありがとうございます。

それは、ありがとうございます。ウェブサイトを今、発見しました。なるほど、そういう日本のカルチャー発信の中ですね。その中に共生社会とか人権的なことを入れ込むことが可能であればいいですが。これを拝見している限りは、障がい者のイベントという感じもしますけれど。障害以外の人権課題ももし入るのであればいいですね。

そのうえで、このイベントは、ショーウィンドウに入るかもしれないイベントとして期待したいと思います。

先ほども御指摘があったんですけど、人権と環境と言われている中で、私の目から見てですけれども、日本全体の中で、やはり環境対策の進み具合と人権問題対策の進み具合ですとか、理解の度合いがあまりにも間違います。ですので、組織委員会のせいというわけではなく、日本全体のせいで、人権は少なくとも環境と比べれば取り組みが遅れています。その結果として組織委員会の取組も遅れているというふうに感じてきて、そのことをずっと指摘してきました。この1年間ぐらいで、この組織委員会の中でもともと何のリソースもあてがわれていなかった人権ですが、その中でスタッフの方々が最大限の御努力をしてくださって、ほとんど何もなかったところから積み上げてくださっているということを拝見しておりますので、そこはまず感謝歓迎したいというふうに思います。

例えば先ほど御指摘があったグッズですとか、あるいは、大会期間中の対応のマニュアルですとか、そういったものはこれから発展させられる可能性があるし、一生懸命、情熱を持って御対応されているということも拝見していますので、期待をしたいと思います。

ただ、そうは言いつつも、このONEフェスティバルは一応期待があるんですけども、残念ながら、キラリコンテンツに載せられるほどのものは、まだないのかなというふうに思っています。ただ、もうあと1年なので、これからキラリコンテンツを人権でもつくるというのは、ONEプロジェクトでしたか、に期待をするとしても、ちょっと無理かなとも思います。ですから、現在のあるこのグッズですか、あるいは、会場での対応のマニュアルというものにちょっと上乗せをして、これをどうやって世の中に発信していくか、その見せ方、何かと組み合わせて、より大きなメッセージにしていくとか、この土台に工夫を入れるということが、次に大事なことになるのかなというふうに思います。

あと、市民社会も人権分野は非常に体力がなく限られていますので、コラボレーションするといっても限りがあるんですけれども、組織委員会が市民社会とコラボ―レーションするのがいいのではないかと思います。例えば私が拝見している中ですと、プライドハウスという取組が民間の中であるんですけれども、今は組織委員会と何か公式な関係があるわけではないと思いますが、そういった公式な連携が何かの形で組織委員会と、あるいは、オリンピックと示せるのであれば、そういったものをキラリコンテンツの中に加えていく。

プライドハウスはLGBT系のムーブメントですけれども、そういったことも可能かなと思いますので、既に手をつけている既存のものをどうやってキラリコンテンツにしているか、キラーコンテンツにしているかということを、引き続き、御検討いただきたいなと思います。私も可能な限りお助けしたいです。

○崎田座長　ありがとうございます。

黒田委員、お願いします。

○黒田人権労働・参加協働WG座長　今日はワーキンググループからということで参加をさせていただいております。

私のほうから、少し大き目の話でちょっと人権労働を越えてしまうところもありますけども、コメントさせていただきたいと思っているのが、SDGsとの関連性のところです。冒頭、座長からもお話がありましたし、3月25日の街づくり持続可能性委員会の御意見の中にも、SDGsとの紐づけというか、関連性をもう少し示したほうがいいのではないかという御意見があったかと思います。3月に出された報告書にも触れられていますが、もう少し積極的に、関連性を示すような形で発信したほうがいいのではないかと思うんですね。

御存知の方も多いと思いますけども、SDGsの実施指針というものがございまして、今

年中にその見直しが行われます。その見直しには、政府だけでなく、民間のさまざまなセクター、産業界であったり、労働界であったり、市民セクターだったり、大学の先生であったり、研究者等が関わっていますが、先ほど気候変動の話があったように、深刻化する課題の解決にどう取り組み、持続可能な社会を作るかをベースにSDGsというものがつくられているので、SDGsに触れるときは、まずはその本質的なところをしっかりと書き込んでいくことが、すごく重要だと思うんですね。

個別の取組をSDGsの個別の目標（またはターゲット）に紐づけるということも、それはそれで重要だと思いますし、今は社会の中のSDGsに対する認知度も上がってきているので、そういうことをすることでわかりやすさが増すということも事実だと思います。

ただそれだけではなく、例えば、ダイバーシティ＆インクルージョンがなぜ必要なのかという理念であったり、哲学であったりというところを、哲学まで書くのは難しいかもしれませんが、SDGsが言っているその本質的なところ、そういった理念というものに賛同している、共感しているというような表し方で、全体的なサステナビリティを目指すという姿勢が表されるといいのではないかなというふうに思いました。

あと、もう一つ、このオリンピック・パラリンピックのレガシーということですが、サステナビリティという社会の持続可能性を高めるということが、ある意味、最大のレガシーなのではないかと思うんですが、このオリンピックの先にどういう未来、ありたい姿というか、どういう未来を目指すのかというメッセージがあるとよいと思います。そこに向けて、このオリンピック・パラリンピック競技大会という非常に大きなイベントを通して何を達成しようとしているのかという、やはりそういった姿勢を見せていくことはすごく重要ですし、そのことによってオリンピックを楽しむだけでなく、オリンピックに参加する人であるとか、それを楽しんでいる人、テレビで見ている世界中の人たちが、サステナビリティの実現をなるべく自分事にできるような、そんなメッセージというか姿勢が次の報告書に書かれるとよろしいではないかと思いました。

人権・労働に関しては土井委員のほうからお話されたので、私はここまでにします。

以上です。

○崎田座長　黒田委員、ありがとうございます。

非常に根本的なところで、今日、報告書の細かいお話など、皆さんからできるだけお話をいただこうと思ってお話を振っていたりしましたけれども、根本的なところ、やっぱりSDGsとしっかり関連づけながら、社会の将来にうまく貢献していくような場をしっかりつ

くっていくという、そういう気持ちでここまでやってきているということをしっかり常に意識していくことが大事なんだという、そこを私たちも忘れずにいたいと思いますし、そして組織委員会の皆さんも、そこをしっかりと伝わるような形で歩んでいただければありがたいなというふうに思います。

次にいっていいですかね、御発言されますか。

○石田委員　ありがとうございます。

人権・労働に関してですが、人権については丁寧に記載されていますが、労働に関する記載がありません。

持続可能性に配慮した調達では、モニタリング調査を実施する等、調達基準と労働実態をきちんと把握するなどの取り組みがされています。。

こうした調達基準と労働実態の双方で取り組んだことはすばらしいところだと思っています。人権・労働または持続可能性のどちらかになると思いますが、前面に出して記載していただきたいと思っています。

以上です。

○崎田座長　ありがとうございます。

調達基準と労働のところはしっかり前に出してという話がありました。その前の御質問に関して、何か組織委員会のほうでコメントは特にありますか。よろしいですか。

杉本さんのほうから手が挙がりました。よろしくお願いします。

○杉本持続可能性計画課ディレクター　石田委員のほうから御質問のありました報告書、あるいはコミュニケーションの中でその労働分野をどう捉えて書いているかということに関して、今日、この概要の中には紙面の都合で書いていないんですけれども、本文のほうの中では労働の部分もかなり厚く書いています。

大きく分けまして、大会を実施する側、これも幅広いんですが、職員、スタッフ、ボランティア、それからコントラクター、あるいは調達コードに関して、サプライチェーンにつながる側が自分たちの足元の労働環境をどうやって配慮して、ちゃんとやっていくかということを御報告すると同時に、社会に対して、これをきっかけにどうインパクトを与えるかということで、後者に関しても、今の日本や世界における労働問題の捉え方とか、状況について、我々が直接行動するところをちょっと超えて、啓発という意味も込めてレビューするような形でも書こうと、今、なっています。そのように準備しております。

御指摘いただいたみたいに、特に調達分野における労働問題というのは大事なことでし

て、それはこの五つの人権・労働というところにあわせて調達の章がちゃんとあるんですけど、その中で詳しく触れております。

○崎田座長　よろしいですか。

ありがとうございます。

皆さんに少し御提案なんですけれども、徐々に時間が迫ってまいりまして、もう一つ用意していただいている持続可能性に関する発信ツールというのがあります。これを先に説明していただいてから、残りの時間、皆さんから御意見をいただくような形にしたいと思いますが、よろしいでしょう

（異議なし）

○崎田座長　　ありがとうございます。

それでは、次の資料4のほうの御説明をしていただければありがたいというふうに思います。

○大谷持続可能性企画課長　資料4のほうを、時間も限られておりますので、簡潔に御説明いたします。

このツールにつきましては、先ほどの御意見もありましたとおり、いかに発信をしていくかということで、私どもで考えたものでございます。統一してメッセージを発信していくという点と、皆様にもお使いいただいて、色々な方々がお使いいただけるような形で考えております。

重点といたしましたのは、まだ持続可能性の関心が高くない方も御理解いただけるような入り口としての資料をつくっておりまして、いわゆる文字量をなるべく少なくしたりとか、ビジュアルに配慮したりということで、今回、作成をしたものでございます。今後、本日の御意見を踏まえまして一旦内容を確定させていただいて、これからどんどん使っていきたいと思っておりますし、また、これが確定版というよりは、これからまた取組も増えてまいりますので、そういったものも踏まえて内容も充実させていきたいというふうに思っております。

内容を簡単に構成だけ御説明をさせていただきますと、冒頭の部分で、そもそもの世界的な情勢ですとか、直面している課題というのをわかりやすく御説明をさせていただいております。なぜ持続可能性が重要なのかというのを知らない方にもわかりやすくというところで、そこでSDGsのほうにもつなげていくという構成にさせていただいて、全員が取り組まなければいけないというふうに実感を持っていただくような御説明でございます。

それから、持続可能性とスポーツの関係を中段で御説明をして、それから、大会と持続可能性の関係、こちらについても御説明をしているものでございます。

中ほどからは具体的な、いわゆるコンテンツ書いておりまして、これがどういう意義を持つのかというのも、なるべく短い言葉で表しながらの説明を続けているというところでございます。

最後のところが、要は一般の方々が結局、どういう関わりがあるのかというところに身近に感じていただきたいというところで、私どもが御紹介をしている参加型の取組を御紹介したりですとか、あるいは参画プログラムという形で、皆様が自主的にお取り組みいただける仕組みですとか、それから、今後これはまた拡充をしていきたいと思っておりますが、大会中に御参加いただけるようなこと、最後に大会後にもっと考えて行動していこうというところを触れつつ、最後にメッセージとして、大会が皆さんの行動を始めるきっかけになると、そしてレガシーになるというところを書かせていただいて終わるという構成にさせていただいております。

本日はこういった形で御提示しておりまして、これが全てというよりは、こういったものも含めて、より発信をこれからもしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○崎田座長　ありがとうございます。

質問なんですが、これは、今後、組織委員会の皆さんが発信にお使いになるのはもちろんですが、例えばここにいるいろんな委員の皆さん、いろんなところで講演会とかをされると思うんですが、そういうときにこれの一部を使わせていただいて発信をしたりというのは、組織委員会の皆さんにお話を申し上げれば、そういうこともできるという、そういう理解でよろしいです。

○大谷持続可能性企画課長　はい、資料の1ページ目にも書かせていただいていますし、今、座長がおっしゃっているとおり、皆様にもお使いいただけるようにしていきたいと思います。

○小宮山委員長　これはいつまでに完成させるものですか。

○大谷持続可能性企画課長　期限というものはありませんけれども、本日、御意見をいただければ。

○小宮山委員長　だけれども、最終的な報告書に載せるのでしょう。3月につくると言っています。

○大谷持続可能性企画課長　はい。報告書の内容も踏まえて、こちらはこちらでつくっていきますし、これとは別に概要版というものも、報告書の概要版はもう少し中身を説明した概要版をつくります。

○小宮山委員長　私は言いたいことはたくさんあるのだけれども、ツールの期限はいつでしょうか。もうできているということですか。

○大谷持続可能性企画課長　まず、本日御説明する内容は……。

○小宮山委員長　例えば、今、ババッと見ただけだけど、環境の部分しか書いていないのではないですか。持続可能性とは、さっき言ったように、地球が健全に持続する、それから、人が健全に持続できることも不可欠でしょう。それで、そのための社会というのはどういう社会か。その社会の条件として自然とか、文化とか、ダイバーシティというのがそこに入るのかどうかわからないけれども、そういうものがあるわけです。

これだけ出したら、日本は持続可能性というのは環境問題だと考えているということになってしまいます。よく見ていないけれど、今送られた範囲ではね。だから、これだけではだめだと思います。

○崎田座長　ありがとうございます。

という御指摘もありますので、委員の皆様からは、例えばこういう情報も入れたらいいんじゃないかとか、そういう御要望とか御意見がありましたら、この後、1週間ぐらいいただけますか、それとも数日とか、そういう感じですかね、御意見があれば集めるような感じでお願いしたい。

○大谷持続可能性企画課長　御意見をいただいて、またその状況を踏まえて御意見をいただく期間を設けたいというふうに思います。

○崎田座長　ありがとうございます。

今、これに関して、直接の御意見に関して、細部に関しては、ぜひメールで御意見をいただければありがたいなと思います。全体的なこと、あるいは、これの活用に関する御提案とか、何かあれば御発言いただければありがたいというふうに思います。

なお、各省から来ていただいていますが、内閣官房からは林さんが御出席ですし、発信力の強い大臣が就任された環境省からも永島さんがお越しなので、今日の流れの中で、どういうふうに政府が関わっていかれるか、コメントいただければありがたいかなというふうに思いますが。

じゃあ、内閣官房のほう、林さん、お願いします。

○林内閣官房参事官補佐（代理）　冒頭ご報告いただきましたが、第2版の計画を策定した後、特に環境の部分の資源循環のところに関しましては、小西先生からもリデュースの話がございましたが、物品の調達の段階からリユース、リサイクルを考えて調達すると、まさにリデュースにつながる話かと思っていますけれども、先日、選手村のベッドフレームを段ボールで、さらにマットレスのところもポリエチレン100％で作られるということで、個々の調達の段階でも一つずつ計画第2版に書いたことが具現化されてきていると感じております。皆様の御努力に感謝しております。

加えて全体的なところですけれども、私ども内閣官房では、ホストタウンという全国の自治体と大会に参加する200ぐらいの国々との交流を深めるという取組を行っております。現状、4分の1の自治体440ぐらいになるんですけれども、参加しておりまして、そういった中でもでき得ること、この持続可能性の部分でできることがあろうかなと思っておりまして。実は、ほんの小さな話ですけれども、今年、自治体の横連携を深めるための会議というのを開いているんですが、その中でも例えば一つ事例として挙げれば、LGBTの研修をその中でやらせていただいたりしております。

ですから、先ほどのカーボンオフセットの話もございますけれども、地域での取組ということで、こちら側からホストタウンの自治体にお願いするというようなこともでき得るかなと思っておりまして、内閣官房としても、我々が今、行っている分野から貢献できるところがあれば、ぜひでき得ることをやっていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いします。

○崎田座長　ありがとうございます。

環境省のほうからお願いします。

○永島総合政策課長　環境省ですけれども、今いろいろお話を聞かせていただいて、特にいろんな方々を巻き込んでいく、自治体や市民の方々を巻き込んでいくという意味では、環境省もこれからも協力をしていきたいと思っていまして、例えばSDGsということであれば、これは環境が中心になってしまうんですけれども、今、環境省では地域循環共生圏ということで、地域からそのSDGsを始めていこうということで、全国の自治体などにも働きかけをしているという取組を進めております。

そういう中で、例えば先ほどありました自治体を巻き込むためにもっと協力願えないかという話もありましたので、具体的にどういうことをやっているのかというのをもう少し詳細に教えていただければ、具体的に環境省としても取組を進めていきたいと思っており

ます。

また、この情報発信の関係とはちょっと違うのかもしれませんけれど、例えばメダルプロジェクトについては、金属は集まったということですけれども、これを今後どういうふうに世界に発信していくのかというようなところも気になっておりまして、そこをいかに効果的にやるかによって、今までやった取組が生きていくかというところも大分変わってくると思いますので、そういうところもまたよくお話しをしながら協力させていただければと思っております。よろしくお願いします。

○崎田座長　ありがとうございます。

世界への発信とか積極的にお考えいただければありがたいというふうに思います。

なお、たしか環境省の環境白書とか、そういうのも毎年、6月ごろですかね、出しておられて、先日、中央環境審議会の議論があったときに、来年の環境白書では、いわゆる都市型の地域循環共生圏の例として、オリンピック・パラリンピックのさまざまな事例をかなり積極的に取り上げていただきたいと御提案申し上げて、前向きにお返事をいただきましたので、ぜひ、環境省の内部でも盛り上げていただければありがたいなというふうに思います。よろしくお願いします。

ありがとうございます。

あと、東京都からもお越しいただいておりますけれども、三浦さんとか、若林さんとか、コメントいただければありがたいですが。

○三浦運営調整担当部長　環境局の若林のほうがおりませんが、私、オリパラ局のほうでオリンピックの準備の担当しております三浦でございます。

今までのいろいろ活動の御努力のほうにつきましては非常に、東京都も開催都市でございますので、感謝しているところでございます。

現状、先ほどの座長のほうからのテーマの関係ですけれども、やはり東京都は、実際には業務が、行政ですので縦割りでいろいろやっているということで、環境は環境、あるいは人権は人権の部門。私どものほうも、今、実際、整備の関係で調達を行ったりとしているところで縦割りになりやすいんですが、オリンピックという機会が非常にテーマとしては全体で連携をしやすいということもありまして、私ども自身が横串を刺しながら、きちんとこれを展開していくと。SDGs、持続可能の理念そのものも内部で展開しながら、仕事を進めていくという形を考えているところでございます。

○崎田座長　ありがとうございます。

今のお話のように、ここに御参加いただいておられる方は、それぞれの組織の横串をつなぐという部分を担ってくださっている方が大変多くいらっしゃるのかなというふうな感じがいたします。

そういう流れの中で、今回の東京2020大会の成功プラスその後の社会にきちんとレガシーを残すという、そういう流れができるのかなと思いますので、ぜひ、皆さんで……。

○小宮山委員長　それは大変いいのだけれど、横串をつなぐために一番いい方法は、大きな全体の絵を描くことなのです。これはみな要素です。気候変動、資源管理、大気・水、人権・労働と、これを見ても、誰も何も浮かばないです。要するに、さっきから言っているように、全体の絵を地球と、人と、文化と、何とかという、ここからこっちを見ていくという視点がないと、縦割りに横串なんか通しても何も起きないです。

だから、そこを皆さん、よく考えて下さい。要するに、まず全体の絵を頭に浮かべること。それで、その中でこれは何なのかというふうに考えていく、そのプロセスを持たないと。もちろん、神は細部に宿るので、細部は非常に重要なのだけれども、こちらも重要なのです。それが欠けているから、だめなのです。

○崎田座長　いつもこういうふうに活を入れていただいて、皆さんが背筋がピンとなって帰っていくということがあるかと思いますけれども。

小西委員、御発言が残っているんですよね。ごめんなさい。

○小西委員　実は最初のほうのところで後半のところというのをしゃべらなかったので、そこを2点だけお話しさせてください。

やっぱり、これはもう発信ツールの話にすごくなっていて、持続可能性のコード自体の議論は終わったことって扱われているんですけれども、紙や木材というのは調達コード、ロンドンに比べて非常に不十分で、パームもようやく、東京大会で初めて入っていますけれども不十分です。

調達、水産に関しては、持続可能性にリスクのあるものを排除する仕組みそのものができていないので、ショーウィンドウの中に、いわば欠陥商品も一緒に並んでしまうという形になってしまうことをすごく危惧しています。

実際には、この間、シンポジウムを持続可能性に関して開かせていただいたんですが、パナソニックさんとか、ミサワホームさんとか、花王さんとかが来られて、まさに企業さんの真摯な取組をお話しいただいたんですが、結局、企業のほうがオリンピックの持続可能性の調達コードよりも先の取組に進んでいらして、残念ながらオリンピックの調達コー

ドが日本の最先端とも言えない状況にあります。

ですので、これはやはりグリーバンスがあって、何かあればPDCAサイクルを回すということは決まっていますので、日本の良心として、この発信の中に、ぜひ何かあったらちゃんとPDCAを回すんだということも明記していただきたいなと思っています。でないと、キラーコンテンツになるどころか、逆に突っ込まれてしまう、やばいコンテンツになってしまうので、そこはぜひ必要かなと思っています。

あと、やっぱりグリーンバンスのほうですけども、今9件あったということですが、この間のあのワーキングでは8件あったという中で、7件却下されています。ですので、グリーバンスの仕組みそのものがあって、じゃあどういう理由で却下されたといった理由も全て公開して、報告書にぜひ入れていただきたいなと思います。

最後に質問なんですが、結局ロンドンよりも劣っているということに対して、いかがかなということだけちょっと質問させていただければと思います。

○崎田座長　調達の話ですかね。

○小西委員　はい。調達コードですね。紙、水産、木材。

○日比野持続可能性事業課長　日比野でございます。

最後の御質問の件ですが、まず、我々としてロンドン大会とか、リオ大会もそうですけど、過去大会と何か単純に比較するということは、我々としてはしていなくて、それはロンドンにしても、リオにしても、あと東京もそうですけれども、それぞれいろんな国の現状とか、そのときのいろんな背景とか、そのときのいろんな企業の取組状況、実情、いろんなことがあるので、そこは単純に我々は過去大会のものは、そういう意味ではコピペすることは別にしていなくて、東京大会は東京大会として、きちんと関係するステークホルダーの方々を巻き込みながら丁寧に議論して、調達コード、調達基準をつくってきたところでございます。

○崎田座長　ありがとうございます。

○土井委員　今、御回答になかったグリーバンスのメカニズムに対する申し立てが、なぜもこんなに少ないのかということと、今のところ全て却下しているという問題についてもぜひ御回答いただければありがたいです。

○日比野持続可能性事業課長　まず、理由に関しては、これは我々組織委員会に来ている通報に関しては、どういうものが来ているのか、それが今どういう進捗状況にあるのか、また、対応が完了したものについてはどういう理由でということも全て公開していますの

で、そちらを御覧いただきたいということと、件数が少ないというところ、この7件、8件、9件というのをどう評価するかというところはあると思いますが、ロンドン大会の場合は大会全体で11件だったというところもあるので、そういう意味では、1年前の段階で9件というのが少ないというのかどうかというのは、必ずしもそう言い切れないのかなと思っていますし、他方で、我々として周知のところ、これは引き続き、永遠の課題ではありますが、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

○崎田座長　ありがとうございます。

今、調達に関していろいろと意見交換がありましたけれども、私自身、最近食品の分野のいろんな方とお会いすることも多いんですけれども、実は今までの日本の調達って、本当に環境分野には割に熱心な業界の方は大勢いらっしゃるんですけれども、持続可能性と言われる、いわゆる人権・労働などの部分のところまで配慮した調達というのがなかなか定着していないというのが今の日本の多くの商習慣なんではないかなというふうに思います。

そういう中で、今回、オリンピック・パラリンピックの組織委員会が明確に持続可能性を位置づけたルールをつくったということは大変大きな一歩だというふうに思っています。

そういう意味で、日本の社会の中では大変進んだ取組をしつつあると思うんですが、もっとできることがあるのではないかという多くのNGOからの声があるという、そういう現実もあるということを考えながら、より一歩を進めていただければ大変ありがたいというふうに私自身は思います。

藤野さん、お願いします。

○藤野委員　まだまだ不足しているところはあるというのは、そのとおりだとも思いますけれども、崎田座長がおっしゃったように、ない中でつくってきたところもありますので。オリパラは、良くも悪くも、2020年の夏で終わってしまいますから、その後やっぱり引き継いで、レガシーにして頂けたら。国だったりとか、自治体だったりとか、それぞれの主体でそういうものがそもそもなかった、またはそれが不足していたというところが本質的な問題なので、そちらのレガシーにきちんとつながるようにというふうな動きにつなげていけたらということをお願いしたいと思います。

○崎田座長　ありがとうございます。

これをいかにレガシーとして育てていくかという辺りで、ここに御参加いただいている皆さんの知恵の出しどころとか、お力の出しどころがあるのかなというふうな感じもいた

します。

黒田委員、上がっているんですね。じゃあ黒田委員、お願いします。

それで、そろそろ時間ですので、黒田委員のお話、最後でいいですか。ほかにいらっしゃいますか。失礼いたしました。にやっとという感じで。じゃあ、黒田委員、森口委員でお願いします。

○黒田人権労働・参加協働WG座長　すみません。先ほど言えばよかったことなんですけど、ツールのところで五つのテーマに沿って出しているんですけども、今、課題は全てつながっているということもありまして、気候変動が特に脆弱性の高い人々に大きな影響を与えているということで、例えば気候変動と人権とか、あと、飢餓人口が上がっているのは紛争であったり気候変動が原因だとか、そういった課題は全てつながってきているので、よくある、発信するスライドかいろんなところで見かけるものというよりも、もう少しそういった課題感がリンクしているから、例えばそれを解決していくためにも、例えばこういったパートナーシップが必要だとか、もう少し一歩踏み込んだメッセージを出していただけるとよろしいのではないかなということを申し上げたいというふうに思いました。

以上です。

○崎田座長　ありがとうございます。

メッセージ力、その辺をもう少ししっかり考えていったらいいんではないかとお話がありました。

森口委員、最後のコメントでいうことでお願いします。

○森口委員　もう各委員がおっしゃったこと、それから、私が先ほど申し上げたところの繰り返しになるんですけども、この発信ツールの案は、いみじくもやっぱりここでは、持続可能性というのは、環境プラスちょっとでやっているということがもう正直に実は出てしまっている。かつ、それに取り組んできて、それでいいものはあるんで、それはそれで出していいと思うんですけど、さっき藤野委員がおっしゃったことと多分、同じだと思うんですが、今から1年でできることは限られているし、そこで無理無理やったってかなり、いいものをつくるのは難しいと思うんですけど、ここはできていない、本来、持続可能性ってもっと広いんだということを、このプロセスで我々は学んでいますし、そのことをちゃんと皆さんに伝えていかなきゃいけない。

いいことをやりました、それをレガシーとして引き継いでいきますということも大事なわけですけれども、いろんなプロセスの中で、できなかったことを教訓として将来に伝え

ていくという部分も必要なので、できなかったことはできなかったということで認めた上で、これはやっぱり将来にやっていかなきゃいけないんだという宿題はちゃんと書き込んでいただきたいのですね。なかなかそういうこと自身を日本の文化の中でやりにくい、そのこと自身も変えていかなきゃいけないんじゃないかなと思いますので。これもちょっと辛口の言い方になりますけれども、小宮山委員長おっしゃったとおり、このままやったら、結局、持続可能性ってこれだけよということを、そのままわざわざ言っているようなことになりますので、デパートのショーウィンドウだったつもりなのに、実はこれは食品スーパーで売っているものしか売っていないよねみたいなことになりかねないので、いい例えかどうかわかりませんけれども、ぜひそういう方向でここを。これは全面的にやめてくださいということでは決してなくて、これをベースに、そういうことを誤解ないように伝えるように、この発信ツールをうまく、少し改善していただければなと思います。

○崎田座長　ありがとうございます。

最後の時間になってきて、皆さんどんどん元気になってきたという感じで。

○小宮山委員長　いいまとめです。

○崎田座長　そうですね。いいまとめをいただきましてありがとうございます。

それで、今のお話で、本当に、私たちはできること、あるいはできたことだけではなくて、こういうふうに努力したけど、ここはできなかった、でも次の社会にはぜひ伝えたいという、そういうことも明確に言えるような、そういう流れに持っていければなというふうに思いますし、今度の3月の報告書でがこの内容を明確に出していただく、そしてオリンピック・パラリンピックが終わった年の最後にまた最終的にどういうふうに実施したかという報告を出していただくはずですので、その段階でそういうことを少し冷静に書いていただく、あるいは社会が受け止めるような、何かポジティブな気持ちでそういう動きを見届けられるような流れを、私たち一緒につくっていければいいかなという感じがいたします。

今日は、本当に皆さん、久しぶりにお会いして、今の状況を聞いていただき、御意見をいただきました。まだまだ言い足りないということはあると思いますが、この後、メールなどで、もしそういうことがあれば、いただければと思います。期限ですが、組織委員会として1週間は長過ぎますか、それとも来週の月曜とか火曜とか、そういう感じですか。

○大谷持続可能性企画課長　1週間は確実にとりますので、また期限をメールでお知らせいたします。

○崎田座長　わかりました。1週間ぐらいはいただけるということですので、皆さん、また御意見などがあれば、お寄せいただければありがたいというふうに思います。

○小宮山委員長　その1週間が最後ですか。

○荒田持続可能性部長　まず1回まとめさせていただく期限を1週間程度であり、また、これから取組もありますので、リビングドキュメントといいますか、随時更新をしていきたいと。

○小宮山委員長　ともかく、ここまでよく来たと思います、スタートのときから考えると。だから、まだ行けそうな気がするので、いろいろとやりたいのです。

○崎田座長　今日、話さなかった、ということを1週間ぐらいの間にお寄せくださいという意味です。

○小宮山委員長　わかりました。

○崎田座長　よろしくお願いいたします。

　それで、最後、組織委員会から、よろしければ、手島さん、一言お願いいたします。

○手島総務局長　今日も熱心な御議論、ありがとうございました。この3月に向けまして報告書のほうをまとめてまいりますけれども、今日いただきました意見を参考にしながら、報告書のほうは随時、詰めていきたいというふうにと思っております。

　また、小宮山委員長のほうからもお話がございましたけれども、発信ツールにつきましても、先生おっしゃるとおりで、全体の絵といいますか、我々が目指すサステナビリティの理念といいますか、未来像があるわけですので、その辺を地球、人間、自然、文化……。

○小宮山委員長　シンプルじゃないとだめです。

○手島総務局長　そうですね。

○小宮山委員長　描いていって、誰も見ないような絵をつくってもしようがないです。

○手島総務局長　そこをきちんとまとめた上で。

○小宮山委員長　これでいいのかな。

○手島総務局長　まだ足りない部分は本当あると思いますので、そこのところをきちんと先生の趣旨といいますか、書き込んでいけるように、これからまたブラッシュアップをしまして。

○小宮山委員長　これだと、東京2020を取っても同じじゃないですか、10年前だって、30年ぐらい前だって。

○手島総務局長　その辺をやっぱり工夫していきたいというふうには思っております。

本当に今日もいろいろな意見を頂戴いたしましたけれども、改めまして、今、組織委員会のほうでは、運営計画は昨年6月につくりまして、それをいかに具体化していくかということで、テストイベントなどを通じまして、今、それぞれのFAが、より具体的な目標を出したものにつきましては、きちんとできるようにという、そういうところを今やっている最中でございます。本当に1年を切りまして、各FAも一生懸命、取り組んでおりますけれども、そこにサステナビリティの視点というのをきちんと組み込んで、目標達成に向けて、今、取り組んでいるところですので、引き続き御支援、御協力をいただければと思います。また、報告書につきましても、鋭意、情報提供しながら詰めていければというふうに思っておりますので、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

○崎田座長　ありがとうございます。

組織委員会の皆さんは、本当にこれから大変な時期だと思いますけれども、しっかり取り組んでいただければありがたい、そして、多くの委員の皆さんも支え、応援していただければと思います。

今日は本当にどうもありがとうございました。お疲れさまでした。